



チュニジア①
(2022年から派遣)
増田道子さん(44)
スファックス市在住

2022年にJICA海外協力隊員としてチュニジア第2の都市スファックスに派遣され、15歳から20歳代後半までの若者の健全な育成と自立を支援する公共施設「青少年の家」に勤めている。この国の学校には

部活動や課外授業がなく、スポーツや文化に触れる機会が非常に少ない。青少年の家が、そうした機会を提供する役割を担っているのだ。

私は希望者がいつでも自由に参加できる「英語クラブ

部活動良き相談相手に

ブと「日本語・文化クラブ」を開設し、指導に当たっている。日本クラブでは、手作りの教材を基に平仮名などの練習や日本語会話の

ほか、折り紙や箸の使い方なども教えながら、利用者の居場所づくりになるように奮闘している。彼らは幼少期からアラビ

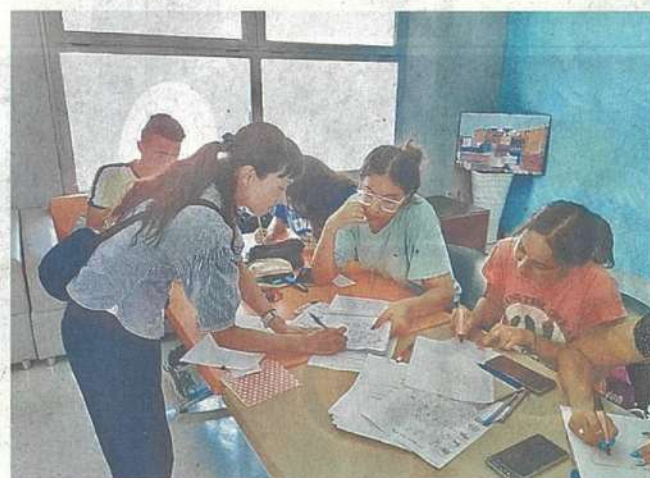
私自身、日本や世界について

残りの半年の任期もその原点を大切にしたいと思う。

も解ける。

それだけに私も、良き相談相手になれるよう会話の時間を大切にしている。互いの宗教の違いや国内の経済不安、就職難など多岐にわたる質問や相談を受け、

子どもが自由に学べ、人生を自由に選択できる世界に！と願って活動してきた。



「日本語・文化クラブ」でチュニジアの青少年に日本語を教える筆者(手前左)

ア語、フランス語などを巧みに使いこなす、うらやましく思ってしまう。遠い国から来た私にも人懐っこい笑顔を見せ、アラビア語や英語で陽気に話しかけてくれるので緊張

このように多くの大人が青少年の挑戦や、価値観が広がるステップを支える場は有意義で、日本でも参考になると思う。私は「全ての子どもが自由に学べ、人生を自由に選択できる世界に！」と願って活動してきた。

残りの半年の任期もその原点を大切にしたいと思う。